大阪大学経済学研究科/経済学部

部局間協定校派遣生の海外留学体験

１．基本情報

体験談記入日（☆）	2024 年　12 月　23 日
大阪大学での所属学部/研究科（☆）	経済学部　経済・経営学科
留学時の学年（☆）	2 年
派遣ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名（☆）	□　交換留学　□　研究留学助成金 □　その他　（　）
渡航先国名・地域名（☆）	台湾
滞在都市（☆）	台北市
留学先大学等名（☆）	国立台湾大学
留学先での所属学部/研究科（☆）	管理学院　國際企業学系
留学先で主に使用した言語	英語
渡航先への入国日（☆）	2024 年　8 月　25 日
渡航先からの出国日（☆）	2024 年　12 月　22 日
渡航先国での滞在期間（☆）	4 ヶ月
同伴者の有無・続柄・年齢等	
その他	

２．留学先の大学に関する情報

２．１授業に関する情報

履修科目名称	國際生華語(一) General Chinese Language Course (I)
履修期間	2024. 9～12
授業時間（〇分×△回）	100 分×週 3 回×16 週
授業形態（講義・セミナー）	講義、ペアワーク
取得単位数	3 単位
履修科目名称	個體經濟學原理與實習 Principle of Microeconomics (with Recitation)
履修期間	2024. 9～12
授業時間（〇分×△回）	250 分(50 分×週 2 回＋150 分×週 1 回)×16 週
授業形態（講義・セミナー）	講義
取得単位数	4 単位
履修科目名称	Python 程式設計基礎課程 Python Programming Foundation
履修期間	2024. 9～12
授業時間（〇分×△回）	150 分×16 週
授業形態（講義・セミナー）	講義、実践、グループワーク
取得単位数	3 単位

履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	全球行銷與談判技巧 Global Marketing and Negotiation Skills 2024.9～12 150 分×16 週 講義、グループワーク 3 単位
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	國際學伴之服務學習 International Companions for Learning 2024.9～12 40 分×9 週 Google meet での online 交流 2 単位
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
留学生（日本人）の割合	どの授業にも３～５人ほどいたと思います。

成績評価の方法（試験・課題の数や分量等）	試験の比率が大きいものと、試験はなく出席やグループワークのみで成績が決まるものなどさまざまでした。
履修科目の制限等（あれば）	
（英語圏以外の場合） 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	中国語の学習は留学先の授業が初めてで日常会話など全くできなかったので、日本人以外との交流は全て英語でした。留学生はもちろん、台湾大学の学生も英語が堪能な人が多く、台湾人の学生を含んだグループワークでも英語が使われていました。 英語開講の授業も多く、留学生向けのものもありました。
語学に関するｻﾎﾟｰﾄ(特別授業、ﾁｭｰﾀｰ、ｴｯｾｲﾗｲﾃｨﾝｸﾞに関するｻﾎﾟｰﾄ等)	留学生向けの中国語の授業は細かくレベル別に開講されていて、授業開始前にクラス分けテストを受けて割り当てられます。私は中国語の勉強経験がないと伝えると、クラス分けテストを受けることなく初級レベルに割り当ててもらえました。初級レベルの中でも 1 番初心者向けのクラスで、比較的簡単な英語で中国語を基礎から教えてもらえました。授業後先生に質問に行くと、毎回とても親切に対応してくださいました。
授業内での留学生に対するｻﾎﾟｰﾄ等	留学生向けに英語で開講されている授業しか取っていなかったので、特に留学生へのサポートはありませんでした。
その他	

２．２福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設(生協・購買・食堂)について	学食やコンビニ等の施設は充実していたと思います。キャンバスの中に学食が入っている建物は何ヶ所かあり、他にもマクドナルドやカフェ、セブンイレブンやファミリーマートなどが至るところにありました。学生証を見せたら割引してもらえるところが多く、コンビニでも毎回 10%引きしてもらえました。
図書館について	正門から大通りをまっすぐ行った先に見える大きな図書館と、社会科学院図書館の 2 つがあります。学習できるスペースが広く席数もかなりありましたが、テスト期間に行った際は、空席を見つけるのに苦労することもありました。
保健ｾﾝﾀｰ等の有無	
ｸﾗﾌﾞ・ｻｰｸﾙ等について	台日交流サークルに入りました。台湾人学生は日本の留学経験があったり、日本が好きで少し日本語が話せたりという方が多く所属していて、中国語を勉強し始めたばかりでも楽し

	く交流ができました。ご飯会や旅行、忘年会などのイベントが行われていました。
留学生へのｻﾎﾟｰﾄ	バディ制度というものがあり、留学前から台湾大学の学生が履修登録等をサポートしてくれました。管理学院の国際交流担当の方も親切で、メールで質問したらすぐに返信をくださいました。
オリエンテーション等学校主催の行事について	8 月末から、留学生向けのオリエンテーションが大学主催と学部主催とで 2 回行われました。学部内のイベントとしては文化ツアーがあり、管理学院の留学生と台湾大学の学生が観光地をバスで巡るツアーに参加しました。バスは 3 台あり、日本人は各バスに 1 人しかいませんでした。
現地の学生との交流について	ICL という授業でペアになった現地学生との交流が主でした。その他の授業では台湾人の受講生が少なかったり、講義を聞くだけの授業だったりで交流は少なかったです。
他の留学生との交流について	大学主催のオリエンテーションでたまたま前後に並んだ留学生と、留学期間頻繁に会い交流する仲になりました。他にはグループワークのある授業で同じグループになった留学生と休み時間に少し雑談することもありました。
学外での活動について（地域コミュニティー活動等）	
長期休暇中の過ごし方	
その他	

３．ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類（☆）	停留ビザ（VISITOR VISA）
ビザの取得手続について（申請方法、申請から取得までの所要期間等）（☆）	中之島にある台北駐大阪経済文化弁事処に必要書類を準備した上で申請に行き、1 週間ほどで受け取れました。
利用航空会社	JAL
入国の際の現地空港名	桃園国際空港
空港から滞在先への移動について（交通手段や所要時間）	車
入国審査について（提示した書類、審査官からの質問等）	特に問題ありませんでした。
渡航後の手続き（在留届の提	

出、外国人登録等）	
その他	

４．金銭に関する情報

奨学金の受給	有　　無
奨学金名	70 周年記念事業 海外渡航奨学金
奨学金月額受給額（円）	全部で 80,000 円
入国時に用意した金額	
ｸﾚｼﾞｯﾄｶｰﾄﾞについて（ｶｰﾄﾞ会社名・日常の利便性）	
留学中に利用した銀行名	
現地での銀行口座開設について（開設の有無・手続き等）	
ﾃﾞﾋﾞｯﾄｶｰﾄﾞの使用について	
日本からの送金方法について	
1ヶ月の生活費（目安）	18,000～20,000 元（日本円で約 85,000～100,000）
その他	

５．暮らしに関する情報

５．１住居に関する情報

住居の種類(学生寮(一人部屋・二人部屋）・ｱﾊﾟｰﾄ等)	水源寮(1 人部屋)
家賃	月 8210 元(日本円で約 40,000 円)
住居を探した方法・時期	留学前に抽選
荷物の運搬方法（ハンドキャリー、国際宅配便（会社名、プランも）等	L サイズのスーツケース２つを持っていきました。
その他	

５．２　食生活についての情報

普段の食事（自炊・食事つき学生寮等）	部屋内での料理は禁止されていて、共有スペースでしか許可されていなかったので、自炊することはありませんでした。毎回外に買いに行きテイクアウトするか、UberEats(寮の玄関前に専用の机がありそこまで届けてもらえます)をしていました。
1ヶ月の食費	約 40,000 円
その他	

５．３　その他日常生活に関する情報

電話について	中華電信という会社のプリペイド sim を到着後すぐ購入し使用していました。モバイルデータ通信が無制限で、電話も一定時間まで無料で使えるものでした。
ｲﾝﾀｰﾈｯﾄについて（Wi-Fi 環境等）	寮の共有スペースには Wi-Fi があるとのことでしたが、部屋では使えなかったので常にモバイルデータ通信で接続していました。iPad やパソコンもスマホにデザリングして使っていたので通信スピードが遅く、不便に感じることも多かったです。
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰについて	日本で使っていたパソコンをそのまま使っていました。
郵便について	
交通機関について	水源寮と台湾大学のキャンパスの最寄り駅は MRT（地下鉄）公館駅で、台北中心街まで 15 分ほどで行くことができます。 地下鉄やタクシー、バスなど交通費は日本に比べると安く、2 度旅行に行ったり、病院通いにタクシーを何度も使用したりしましたが､4ヶ月間で全て含めて約 45,000 円ほどでした。
治安について	治安はかなり良かったと思います。夜に 1 人で歩いていても特に危険を感じることはありませんでした。
保険について	たびほの保険に加入しました。台湾滞在中 2 度体調を崩し 4 度病院に行き 1 度入院しましたが、キャッシュレス受診という制度で医療費を一旦払う必要もなく、病院までの交通費も後に請求すると全額保証してくれました。
医療機関・薬について	保険会社提携の病院を受診しました。最初に紹介された病院は体調不良の原因等は探らずただ薬を保証されて終わりだったため不安が残りましたが、次に紹介されたのは台安医院という規模が大きい病院で、日本語と英語対応の国際特診センターがあり、日本語堪能なスタッフの方が通訳してくださったので安心でした。 入院中も看護師の方が英語や Google 翻訳を使ってくださったので意思疎通はできました。
気候と服装について	8 月末から 11 月に入るまで基本的にはずっと半袖でした。11 月以降も薄手のカーディガン 1 枚で十分な気候が続いていましたが、12 月に入ってしばらくすると一気に寒くなり、長袖 2 枚でも寒く感じる日が多かったです。
普段の買い物について	寮から徒歩圏内にドラックストアが 3 軒、スーパーが 1,2 軒あったので、買い物に困ることはありませんでした。

娯楽・行事について	VPN を契約して、Netflix を見ていました。
日本語の使用について	中国語の授業で最も仲良くなったのが日本人だったので、ほぼ毎日日本語は使用していました。もともと留学先でしか出会えない日本人同士の交流も大事にしたいと考えていたので、意識して日本語断ちすることはありませんでした。
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	1年次に使った教科書(台湾大学でのミクロ経済の授業が同じ教科書の英語版を使用していたので、勉強が楽になりました)、お味噌汁 必要なものは大体台湾でも買えたので特にはありません。強いて言うなら、テイクアウトしてきたご飯を食べるときにお箸をもらい忘れたりすることが多かったので、割り箸や使い捨てスプーンを持っていっていたら便利だったと思います。(近くのコンビニやドラックストアを探しても見つからなかったので)
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	英語の勉強一択かなと思います。もともと英語試験のスコアが応募資格条件をギリギリ満たすくらいでの出発で、留学開始後にリスニング力とスピーキング力に低さを何度も何度も痛感しました。 ほかの学生と交流を持ちたくても、英語堪能な人たちは話すスピードが速く聞き取れないことが多かったです。その上自分から何かを話し出すこともできず、英語力の伸びなど感じられない期間が続きました。 留学期間後半には、言いたいことを頭でまとめてから話し出したり、もはや勢いで話し出して考えながらなんとか言葉を繋げたり、というように文法の正しさなどは深く考えず、伝えたいことを伝えるだけの会話なら少しできるようにはなりました。しかし、リスニング力は依然低く、何度か聞き返してやっと理解することも多かったです。
その他	

６．就職活動に関する情報

留学前の就職活動について（セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等）	2年次での留学だったので就職活動は始めていませんでした。
留学中の就職活動について（海外からの情報収集、企業へ	

のｺﾝﾀｸﾄ、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ等）	

７．語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	TOEFL iBT の受験（留学の出願に必要だったため）
留学中の学習方法、工夫したこと等	
留学後にどれぐらい語学力が伸びたか（主観的な実感や具体的なスコア等）	まだ資格試験を受けていないのでスコアはわかりません。 英語力が大きく伸びたという実感はそこまでありません。中国語は、留学生向けの一番初心者向けの授業を受け、授業内容の基礎はある程度理解できるようになったと思います。

８．その他

留学して得られたこと	
留学中に困ったこと	体調を何度か崩しました。初めての一人暮らしだったので対処に困り、買い物にも行けず、日本から持って行った解熱剤も効かず、かなり大変な 1，2 週間を過ごしました。 12 月上旬に入院したのですが、体調を崩している期間、大学の授業の欠席や課題に関する連絡でメールのやり取りが増えました。退院予定日の次の日に期末テストがあった講義の先生に別日受験させてもらえないか伺いましたが認められず、テスト対策が全くできないまま受験することになったのも焦りました。
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	台湾は日本人からも人気の観光地なので、わからないことは検索すると大体日本人が書いたウェブサイトを見つけることができます。

９．留学体験談・エッセイ（
様式任意）
留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を１～２ページ(様式任意)で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室の HP や Newsletter に掲載させていただく可能性があります）。

私は中学生の時から将来留学に行きたいと思っていました。そのために英語研修イベントなどがある高校を選んで入学しましたが、コロナになってすべての行事が中止となって

しまいました。大学に入ってコロナ禍も明けたので、挑戦してみようと思い留学に応募することを決めました。

留学先に台湾を選んだ理由は大きく 2 つありました。1 つ目は欧米やシンガポールは物価が高く、現地での経験（グルメや観光、旅行）を制限する必要があると思ったためです。それに、英語圏に自信をもって挑戦できるほど英語力に自信はありませんでした。2 つ目は中国語を勉強してみたいと感じていたためです。大学での第二外国語は単純にドイツに興味があったという理由でドイツ語を選択しましたが、時間が経つにつれて話者の多い中国語を学んだ方が将来的に有用だったのではないかと思うようになりました。そんな中、経済学部の部局間協定校に台湾の大学があったとき、ここなら留学生として英語を使いつつも中国語の勉強を始められるのではないかと感じ、応募してみることに決めました。

実際に留学に行くことが決定してからはやらなければならないことが多く管理が大変でした。大阪大学と留学先の国立台湾大学のそれぞれに対して送らなければならないもの等がいろいろあり、期限もさまざまでした。

私は台湾大学から来た寮の抽選の案内に登録し、水源寮（A 棟で女子専用棟でした）という、大学から徒歩圏内・一人部屋の寮に当選しましたが、大学から離れた圓通寮に当たることも、両方落選し自分で部屋を探さなければならなくなることもあります。

留学中の生活費や食費、旅費はもちろん、出発前から寮の頭金や初月家賃、保険料や VISA 申請料などあらゆる面で金銭的負担が多くありました。

現地で履修した授業は５つで、詳細はこの体験記初めの方に書いた通りです。すべて留学生向けの授業だったので開講言語は英語でした。

中国語の授業は 25 人ほどのクラスで、ピンインの読み方や簡単な基礎の文法から丁寧に教えてもらえました。私は本当に一度も中国語を学んだことがない状態からのスタートだったのですが、漢字がわかるというのは中国語学習者としては物凄くありがたいことだと実感する日々でした。欧米からの留学生も多く在籍しているクラスではありましたが、彼らは漢字・ピンイン・意味を全て同時に覚える必要がありとても大変そうに見えました。先生はとても親切で、課題や小テストの後に質問に行くとわかりやすく解説してくださいましたし、体調不良や入院していたときに欠席や課題提出に関してメールで連絡したらすぐに返信してくださいました。

International Companions of Learning (ICL)は昨年台湾大学に留学されていた先輩から教えていただいた授業で、現地の台湾人学生とペアを組み、台湾の小～高校生とオンラインミーティング機能を使い週に１回 40 分交流をするという内容でした。私は台湾大学の文学部の院生とペアになり、台中市にある小学校の４年生が交流相手でした。毎週決められたテーマに沿って私たち大学生側と小学生側がプレゼンテーションスライドを共有し、発表

と質問を繰り返しながらコミュニケーションを取っていきました。ペアの学生はとても親切で、オンラインミーティングを含めて毎週水曜日 2 時間ほど直接話して交流を深めていくことができました。授業内容の一環で、11 月には 2 人で新幹線に乗って実際に小学校を訪問し対面交流する機会を持つことができました。

上記の二つは経済学系の科目ではないため単位互換はされないのですが、とても貴重な経験となったので履修してよかったなと感じています。

Principle of Microeconomics (with Recitation)の授業では、大阪大学経済学部１年生が必ず履修する「ミクロ経済学の考え方」の授業で使ったマンキューの教科書の英語版を使い、１学期で１冊の内容をすべて学びました。成績評価は中間と期末の試験が大きな割合を占めていましたが、毎週何かしらの文字を打ったファイルを提出したら満点という、あってないような課題がありました。月水の１コマずつの時間に TA さんが課題の問題の解説をしてくださる時間があり、金曜日の連続 3 コマで先生が講義をするといった構成になっていました。日本からマンキューの教科書を持って行っていたので、勉強はかなり楽になりましたが、もう少し英語で学ぶ努力をするべきだったかなと反省しています。

Python Programming Foundation の授業は、前半は毎週先生が提示する課題を授業内で実践してみて質問したり回答を見て考えたりという内容で、後半は５～７人ずつのグループに分かれて、Python を利用して問題解決かアイディア創造のどちらかに取り組む Final Project で構成されていました。私が所属したのはドイツフランス台湾日本の６人という多国籍グループで、私以外全員 Python が得意なようでたくさん助けてもらいました。

Global Marketing and Negotiation Skills はランダムに決められた３人組になり（私はアメリカとオーストリアからの留学生との３人組でした)、ほぼ毎授業、売り手と買い手に分かれて商品を売り買いして総獲得ポイントで順位が決まる RPG が行われました。初めは RPG サイトの使い方や高ポイントの取り方が全く分からず苦労する場面も多かったです。また、売買の交渉の中では、自分のグループの利益を追求しつつ、相手グループと取引が成立する範囲内で値段や取引量を決めていかなくてはならないので、英語力に不安があった私は怖気づいてしまうことが多くありましたが、中盤時期くらいから、チームメイトがやってみな、と私に交渉のスタートを任せてくれることもたびたびあったので徐々に慣れていくことができました。

以上が現地で履修していた授業です。他にも授業は多く開講されていましたが、詰め込みすぎた時間割では中途半端になってしまう講義が出てくるのではないかと思ったのと、台湾での生活を楽しむ時間を取りたいという考えから、5 つに抑えることに決めました。

日本人以外の留学生とは英語で会話していて、英語に苦手意識のあった私も、親しくなった留学生の友人と月に１，２回ご飯を食べに行ったり、観光地に行ったりと長い時間を共有することができるようになりました。また、ICL のペアの現地学生とは、時がたつにつれ次第にオンラインセッション前後の雑談時間を長く持てるようになりうれしく感じま

した。大学外の飲食店などでは、初めは何を聞かれているのかわからないことが多かったのですが、台湾の外食文化のおかげで毎日外に出てテイクアウトし続けていると、簡単な言葉やよく使う言葉は中国語でも理解できるようになっているのが自分でも実感できました。

少し長くなってしまいましたが、私はこの台湾留学の４ヶ月を経て、言語的に少し成長したのはもちろん、精神的にも成長することができたのではないかと感じています。

言語の面でいうと、中国語の基礎を現地で学んだ経験はとても貴重だったと思います。英語に関しては英語力が伸びたというよりも、英語を話すときのマインドが少し変わったというべきかもしれません。留学に行くまでの私は、完璧な文法・相手に明確に伝わる発音を伴った英語でないと発してはいけないと無意識に考えてきました。しかし、そこまで気にしなくてよいかもしれないと途中から思えるようになりました。留学生は世界各国から来ていて、現地の台湾人学生も含めて英語が母国語ではない人が多かったです。日本人の中でも私は英語が本当に苦手な方でしたが、英語を“学習して得た言語”として話している人々がいる（実際は英語も母国語同然に育った人も多いとは思いますが）と考えるだけで、多少私の英語が変でもいいのではないか、当然じゃないか、とある種開き直ることができるようになりました。このマインドを得始めてから、仲良くなった留学生や台湾人学生の友達との会話を楽しむことができるようになりました。

精神的な面では、留学準備期間や留学中、ある程度自分の力でどうにかしなければならないことがいくつもありました。現地で何度か体調を崩し病院にかかったことがあり、特に１２月初めのテスト期間直前にマイコプラズマ肺炎にかかり入院した時期は特にしんどく、初めての一人暮らしであったこともありとても不安な毎日を過ごしていました。そんな中、同じ寮の日本人の先輩に買い物をお願いしたり、病院の通訳さんに親切にしていただいたりと、周りの人に支えてもらっていることや、心配してくれている家族の存在は当たり前ではないことが身に染みてわかり、ありがたみを改めて感じました。

最後になりましたが、たくさんの方々の支えで貴重な４か月を過ごすことができ、本当に感謝しています。ありがとうございました。